図書館だより

Vol.36 No.1 (No.332) 2026.4.13
東洋英和女学院大学図書館

目次

図書館へようこそ！･･･p1-3
学科担当司書制度･･･p4
『図書館だより』発行頻度変更のお知らせ･･･p4

図書館へようこそ！

ご入学・ご進級おめでとうございます。
わくわくと期待でいっぱいの反面、新しい学びや出会いに対してちょっぴり不安を抱かれている方もいらっしゃるのではないでしょうか。
今号では、新たな１年を迎える英和生のみなさんへ、先生方から歓迎・激励のメッセージを頂戴しました。人生の先輩でもある先生方はどのような学生時代を過ごされたのか、現代を生きるみなさんに知っておいてほしい／考えてみてほしいこと――。図書館や本にまつわる観点からのアドバイスは、きっとこれからの学生生活へのヒントとなってくれることでしょう。

（※先生方の所属・役職は 2026 年度人間社会学部のものを記載しています）

学生時代の図書館の思い出 2 題

大学の中央図書館に毎日通っていました。目当ては、1 階の新聞閲覧室と地下の休憩室。新聞閲覧室には日本中の地方紙が毎朝届けられていました。福島から東京に出てきた私にとっては故郷の香り。日本全国にこんなに質の高い地方紙があるということに驚きました。地下の休憩室では煮出しコーヒー。ヤカンに入った煮出しコーヒーを口にすることができた場所は、当時でもここだけでした。コーヒー通には叱られそうですが、とても美味しく感じました。図書館の外は学生運動が吹き荒れていました。

もう一つの思い出のシーンは、Staatsbibliotek zu Berlin（ベルリン州立図書館）。ベルリンフィルのホームグランド、カラヤンサーカスの近くに位置する図書館。閲覧室は、映画「ベルリン　天使の詩」で天使ダミエルが人間を観察するシーンで使われた大空間です。人に寄り添い、色のない世界から色のある世界へ。そして生きる喜び。圧倒する空間に色々な人が集う、私にとってベルリンを象徴する空間でした。

私の思い出のシーンの図書館は、情報の集積空間。そして多様性に出会うと同時に、ホッとする場所でした。自分と向かい合う場でもありました。そう言えば私たち大学の図書館にも、横になって背中を伸ばすことができる Yogibo があります。さあ、皆さんにとって私たちの図書館は…。図書館で出会った素晴らしい本の数数については次回。

東洋英和女学院大学学長　藁谷 友紀

自分をつくる１ページ

学生の頃、ロバート・B・チャルディーニの「影響力の武器」を大学の図書館で手に取りました。社会心理学の分野で名著といわれている本です。出版時期を調べてみると、当時私が読んだのは邦訳第一版（原書第二版）だったようです。人がどのように他者の影響を受け、態度や行動を変えるのかが、様々な研究をもとに書かれており、まだ心理学の専門的な知識がなかった自分にとって、「こんな身近なことも研究されているのか」と知るきっかけになりました。その後、ゼミ選考でも大学院進学でも社会心理学を専攻することを選び、その選択が今の仕事につながっています。本の影響がすべてではありませんが、「影響力の武器」は心理学の大学教員として働いている現在の自分の一部を形づくっているのだろうと思います。

印象に残っている本は、心理学の分野の本だけではありません。学生の頃は自然科学の研究者による本や美術家の書いた本も興味深く読んでいました。どの本に書かれていたのかは忘れてしまったのに、そこだけ印象に残っている文章もあります。それらの本や文章は、職業には直接つながってはいないかもしれません。しかし、今の自分の価値観や嗜好、生活の仕方を確かに方向づけているという感覚があります。

私たちは本を読むことで、少しずつ次の自分をつくっています。本は自分の中にある興味や関心に気づかせてくれるとともに、思考するための土壌となってくれます。東洋英和女学院大学の一員となったみなさんは、本学の充実した図書館でたくさんの本に出会うことができます。その中には、これからのみなさんの一部となる本がきっとあるはずです。

人間社会学部長・総合心理学科教授　渡部 麻美

図書館のすゝめ

新入生のみなさん、これから始まる大学生活において、図書館は最も身近で心強い学びの拠点です。講義やレポートのための資料を探す場であることはもちろん、それ以上に、自分の関心を広げ、未知の世界と出会う入口でもあります。

私にとって図書館の思い出は、大学時代に遡ります。当時、大学図書館でアルバイトをしていた時期がありました。貸出業務や館内放送などさまざまな仕事を経験しましたが、特に印象に残っているのは「配架」の作業です。返却された本を分類記号に従って棚に戻す、図書館の基本的な業務です。その経験のおかげで、「日本十進分類法（NDC）」などの知識は今でも記憶に残っています。しかし、それ以上に貴重だったのは、多くの本との偶然の出会いでした。普段であれば手に取ることのなかった本や、誰かが何らかの目的で読んだ本との出会いは、「こんな分野があったのか」と新たな好奇心を呼び起こしてくれました。さらに書棚に戻す際には、その周囲に並ぶ見知らぬ本が目に入り、すべてを読んだわけではなくとも、自分の世界が広がっていく感覚を覚えたものです。

現代はタイパやコスパといった、効率や時間の使い方が重視される時代ですが、あえて目的を定めずに書棚の間を歩く時間には、思いがけない発見があります。本学図書館には約 34 万冊の蔵書があり、それぞれがまだ見ぬ世界への扉です。想像してみてください。一冊一冊の本が、あなたの手に取られる瞬間を静かに待っている姿を。何だかワクワクしませんか。さあ、あなたもぜひ気軽に図書館を訪れ、本との出会いを楽しんでください。きっと皆さんの大学生活をより豊かにしてくれるはずです。

総合心理学科主任・准教授　小林 能成

絵本の話

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。桜の花と青空が皆さんをお迎えしていると思います（とよいのですが・・）。大学時代は人生の中で最も自由で有意義な時間です。どうか悔いのない 4 年間を過ごして頂きたいと思います。高校までの勉強と異なり、大学では自分の好きなことを学べます。自分の将来をイメージしながら挑戦できることに失敗を恐れずにチャレンジできる時間的余裕があります。

本学の図書館 2 階には絵本の書架があります。そしてたくさんの絵本が所蔵されています。大学は 1989 年の開学ですが、保育者養成の課程は短大時代からの長い歴史があります。そのため、60 年近く前の子ども（私ですが・・・）の慣れ親しんだ絵本も置いてあります。きっと皆さんにもお気に入りの絵本があることでしょう。ぜひ、2 階の絵本コーナーに足を運んでください。自分が子どものころに読んだ本を手にとることだけでなく、その周辺にある他の絵本にも目を向けてみてください。時代とともに移り変わっていく表紙の色合いや内容に驚くこともあると思います。絵本というと簡単な内容ばかりかと思っていると、意外にも文字だらけのものや「命」や「平和」等の難しいテーマを扱ったものも多いです。

子ども教育学科では、一年のうち数回、「こどもの広場」を開催して地域の親子や付属かえで幼稚園の親子たちと学生たちが一緒に時間を過ごします。そのようなときの絵本はとてもよいコミュニケーションの道具となります。子どもの育ちに必要なことは、応答的な人間関係をベースにした遊びの機会です。大学での学びの 4 年間、図書館に足を運び、ぜひ、多くの絵本にふれあって頂きたいと思います。

子ども教育学科主任・教授　山本 真実

AI の時代に、どうして本を読むのか

新入生のみなさん、在校生のみなさんへ。

最近、本をゆっくり読んだことはありますか。

正直なところ、今の時代、本を読まなくてもなんとかなってしまいますよね。わからないことはすぐ検索できますし、レポートのテーマを入力すれば、ポイントもきれいにまとめてくれます。とても便利です。だから、「もう本はいらないのでは」と思う人がいても不思議ではありません。

でも、少し考えてみてほしいのです。AI は、こちらが質問したことには答えてくれます。でも、その問いそのものが浮かばなければ、答えも生まれません。つまり、自分が気づいている疑問には答えてくれるけれど、自分がまだ知らない世界までは、なかなか導いてくれません。

本は、ちょっと違います。図書館でなんとなく手に取った一冊が、思いがけない気づきを与えてくれることがあります。たとえば、将来の進路に迷っているときに、ある有名人の伝記を読んで、「こんな生き方もあるのか」と視野が広がることもあるでしょう。あるいは、心理学の本を読みながら、「だから私はこう感じていたのか」と、自分の気持ちに納得できる瞬間もあるかもしれません。

大学は、自分の可能性を広げる場所です。それは教室の中だけでできるものではありません。図書館の棚には、あなたがまだ出会っていない世界が、静かに待っています。難しい本でなくてかまいません。タイトルが気になったものを、少しだけ読んでみる。それだけでも十分です。

便利な時代だからこそ、あえて本を読む時間を持つ。すぐに答えが出るわけではないかもしれません。でもいつか、「あの一冊があったから今の自分がある」と思える瞬間が、きっと訪れるはずです。

国際学科主任・教授　足立 恭則

学科担当司書制度

東洋英和の図書館では各学科に１名ずつ「学科担当司書」を配置しており、入学から卒業まで同じ司書が、みなさんの学習・研究活動をサポートします。
レポートや卒業論文作成など、大学では”調べる・まとめる・伝える力”が大切。その中でも学科担当司書は、学習・研究を進める上で欠かせない文献（資料）の入手をバックアップしていきます。

たとえば…

■図書館の使い方や本・新聞記事の探し方といった基礎的な情報検索方法から、各ゼミの学びに応じたオーダーメイドの**情報検索オリエンテーション**を実施します。

■ご要望に応じて、**ゼミ選書ツアー**を実施します。ゼミごとに書店店頭へ赴き、卒論テーマに必要な本を自分で選ぶことができます。

■「文献の探し方が分からない」「卒論テーマについて書かれた文献を紹介してほしい」など、**個別の文献入手相談**に対応します。カウンターでの対面相談に加え、専用フォームからオンラインで質問をすることもできます。

各学科の担当は以下のとおりです。何かご相談などありましたら、お気軽に図書館１階のレファレンスカウンターをお訪ねください！

総合心理学科
（人間科学科）
池上（いけがみ）

子ども教育学科
（保育子ども学科）
小田（おだ）

国際学科
（国コミュ･国社学科）
青山（あおやま）

『図書館だより』発行頻度変更のお知らせ

2026 年度から『図書館だより』の発行は年 2 回（4 月・10 月）とさせて頂きます。
2025 年 12 月から今年 1 月にかけて実施しました「図書館だよりアンケート」では、多くの利用者の皆様に回答のご協力を頂きまして、ありがとうございました。
アンケート結果を参考に、さらに充実した内容でお届けできるよう取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

図書館事務長　青山史絵

（編集担当:小田）

図書館だよりは図書館ウェブサイトからバックナンバーも見ることができます
https://sites.google.com/toyoeiwa.ac.jp/library/kankou/toshokandayori